

英語による学会発表に必要なことは？

○黒沢令子(バードリサーチ)、長谷川理(エコネットワーク)

日本鳥学会も 100 周年を数え、2014 年には東京で国際鳥学会が開催される予定である。若い鳥学者への参加呼びかけも出ているが、一方、学会発表のスキルを磨く機会は比較的に限られていると思われる。特に、母語ではない外国語を使って伝わる発表を行い、聴衆とコミュニケーションをする力を養うことは、若い鳥学者の活躍に必ず結びつくと考え、当集会を考えた。

この集会は、英語でのスピーチやプレゼンテーションをする未経験者から初心者を対象とし、少人数を想定している。伝わりやすい内容を短時間で準備し、口頭発表する練習をする。そこで、論文を書いたことのある英語経験者にとっては、当たり前の話になるかもしれないが、人前で口頭発表をする技能のブラッシュアップをしたい人にはよい機会になるかもしれない。発起人にとっても英語は非母国語なので、プレゼンテーションで意図を伝えるには？、また、相互に意思疎通を図るためにはどうしたらよいか？という点について、参加者とともに考えていくゼミのような場を提供したいと考えている。

予定内容

- ・非母国語を使ったのコミュニケーション体験を聞き、鍵となる点は何かを考える。
- ・「伝わりやすさ」をキーワードに、英語発音、発声のコツ、話し方、スライドの見せ方、プレゼンの仕方などを総括する。
- ・簡単なテーマを設け、その場で短いスピーチ原稿を書き、発表する。
- ・質疑応答の練習。的確に質問に答えるコツはあるか？